

令和5年度 美術館自主事業(企画展)実績一覧

No.	事業名	会期・会場	内容	鑑賞者数
1	デミタスカップの愉しみ	2023年4月1日(土) ～5月28日(日) 展示室A	2000点以上のデミタスカップを所蔵する村上和美さんのコレクションから約380点を精選。第1部では、欧州の名窯が生んだジャポニスム、アール・ヌーヴォー、アール・デコ、輸出用に日本で生産された作品、関連資料などを通じ、西洋の人々が身近なテーブルウェアで楽しんだジャポニスムの受容、デザインの変遷を紹介。第2部では、形態や装飾などに焦点を当て、カップとしての機能に加えて小さなデミタスカップならではの凝縮された技術の美、大胆な意匠などを紹介した。 (展示点数 約380点)	8,699
2	朝倉文夫生誕140周年記念 猫と巡る140年、そして現在	2023年6月9日(金) ～8月15日(火) 展示室A、アトリウム	朝倉文夫の創作を振り返るとともに、朝倉文夫の生誕から140年を経た今、大分を拠点に国内外で活動を展開する美術家 安部泰輔と絵本作家・美術家 ザ・キャビンカンパニーを迎え、朝倉の「猫」作品を軸に、彼らの視点で朝倉文夫、そして「猫」を捉え直し、顕彰、競演。また、本展をひとつの「入口＝プロローグ」と位置づけ、大分市の遊歩公園に展示されている朝倉文夫作品を、さらには、朝倉文夫記念館(大分県豊後大野市朝地町)や台東区立朝倉彫塑館(東京都台東区谷中)を訪れ、鑑賞し、朝倉文夫の創作の魅力や人物そのものに触れ、その足跡や後世に与えた影響などを知る機会となるよう構成した。 (展示点数44点)	11,300
3	住友コレクション名品選 フランスと日本近代洋画	2023年7月1日(土) ～8月31日(木) 展示室B	東京六本木に位置する泉屋博古館東京が所蔵するフランス絵画、日本近代洋画の中から名品を厳選し紹介。稀代の数奇者として知られる、住友家15代当主、住友吉左衛門友純(号春翠)が始め、長男の寛一、16代当主友成に引き継がれた美術品蒐集を約80点の作品により俯瞰。とりわけ、春翠がパリで購入した2点のモネは、明治30年という早い時期の印象派の招来であり、神戸・須磨別邸に飾られ、日本の画家たちに鑑賞の機会を与えるなど、住友家の優れたコレクションを通して、新たな美の発見を促した。 (展示点数85点)	14,111
4	『テルマエ・ロマエ』の世界	2023年11月25日(土) ～2024年1月21日(日) 展示室A	人類史上に輝く繁栄を誇った古代ローマ。アウグストゥスによる帝政の始まりから、2世紀の五賢帝までの時代は、その後の産業革命による近代化にいたるまで人類が到達することのなかった、豊かな社会、市民のくらしが築かれた時代であった。この豊かさの証が、ヤマザキマリ氏による大ヒット漫画『テルマエ・ロマエ』で取り上げられた、市民の憩いの場・浴場「テルマエ」であり、本展は『テルマエ・ロマエ』の主人公ルシウスが案内人となり、テルマエを中心とした、当時のローマの人々の暮らしを紹介するとともに、日本の浴場文化もあわせて紹介した。 (展示点数約100点)	9,942
5	畠山記念館名品展	2024年2月9日(金) ～3月26日(火) 展示室B	東京港区・白金台の閑静な住宅街にたたずむ畠山記念館は、実業家畠山一清のコレクションを公開するために設立された私立美術館です。創設者の畠山一清(1881～1971)は、事業のかたわら即翁と号して能楽と茶の湯を嗜み、美術品の蒐集に努めました。即翁の愛蔵印に刻まれている「與衆愛玩」の言葉には、「自らの蒐集品を独占するのではなく、多くの人と共に楽しもう」という想いが込められています。所蔵品は、茶道具を中心とする、日本、中国、朝鮮の古美術品で、国宝6件、重要文化財 33 件を含む約 1300 件に及んでいます。本展は畠山記念館の「與衆愛玩」の想いを分かち合うために九州の地で初めて開催される展覧会です。畠山記念館の所蔵品の中から茶の湯と琳派の名品を選び、一室に紹介いたします。 (展示点数約70点)	6,686